「滋賀県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画(第2次)(素案)」に対して提出された 意見・情報とそれらに対する滋賀県の考え方について

1 県民政策コメントの実施結果

平成 28 年 12 月 22 日(木)から平成 29 年 1 月 22 日(日)までの間、滋賀県民政策コメント制度に関する要綱に基づき、「滋賀県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画(第2次)(素案)」についての意見・情報の募集を行った結果、4 名（団体を含む）の方から、計 16 件の意見・情報が寄せられました。

また、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の規定に基づき、並行して市町等関係機関に対する意見聴取を行った結果、意見・情報は寄せられませんでした。

これらの意見等について、内容ごとに整理し、それらに対する考え方と修正点を別紙に示します。

なお、取りまとめにあたり、提出された意見・情報の一部は、趣旨を損なわない範囲で内容を要約したものとなっています。

また、意見等の該当ページは、県民政策コメントで公表した「滋賀県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画(第2次)(素案)」によっています。

2 提出された意見・情報の内訳

項 目	県民	市町等
概要	1	
1. 計画策定の背景および目的		
2. 管理すべき鳥獣の種類		
3. 計画の期間		
4. 第二種特定鳥獣の管理が行われるべき区域		
5. 現況		
6. 第二種特定鳥獣の管理の目標と施策の基本的な考え方	4	
7. 第二種特定鳥獣の数の調整に関する事項	2	
8. 第二種特定鳥獣の被害防除対策に関する事項	2	
9. 第二種特定鳥獣の生息環境の保全・整備に関する事項	3	
10. その他第二種特定鳥獣の管理のために必要な事項	3	
その他	1	
合計	16	0

3 今後の予定

平成 29 年 3 月 9 日 環境・農水常任委員会（計画案について）
3 月末 計画の改定・公表

4 滋賀県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画(第2次)(案)

別添のとおり

(参考) これまでの経過

<環境審議会>

平成 28 年 6 月 2 日	環境審議会への諮問
6 月 28 日	第 1 回自然環境部会 (概要説明)
9 月 27 日	第 2 回自然環境部会 (素案について)
11 月 10 日	第 3 回自然環境部会 (答申案について) 、環境審議会からの答申

<環境・農水常任委員会への報告>

平成 28 年 5 月 18 日	計画の策定予定について報告
10 月 5 日	検討状況の報告
12 月 15 日	県素案 (県民政策コメント案) の報告

<その他の意見交換等>

平成 28 年 8 月 3 日	第 1 回イノシシ管理検討委員会
9 月 12 日	第 2 回イノシシ管理検討委員会
9 月 16 日	特定鳥獣管理計画関係者検討会 (自然保護団体、市町等)
10 月 20 日	関係機関協議 (市町、国等機関、庁内関係課)
11 月 14 日	滋賀県鳥獣被害対策本部 本部員会議 (県素案について)
11 月 25 日	県政経営幹事会議 (県素案について)
11 月 29 日	県政経営会議 (県素案について)
12 月 22 日	県民政策コメントの実施 市町等への県素案 (県民政策コメント案) に係る意見照会

1. 県民政策コメントにより寄せられた意見・情報とそれらに対する滋賀県の考え方について

番号	頁	意見情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
概要			
1		シカの計画の概要には、ジビエ活用が書かれているが、イノシシの計画の概要にはその記述がない。イノシシの計画の本文中には当該記述があるので、概要にも、ジビエ活用を記述すべきと考える。	イノシシはシカ等と比べると自給的な商品化もみられることから、県では当面、シカを中心に取り組みを推進する考えです。このことから原案どおりとします。
6. 第二種特定鳥獣の管理の目標と施策の基本的な考え方			
(2) 管理の目標			
2	20	今年度には彦根城付近でイノシシが出没し人身事故を起こすというショッキングな出来事が記憶に新しいかと思えます。観光地としての資源活用の中で、このような事故は大きな負の影響を生む可能性があるため、生活密集地などにおける人身事故を無くすような取組を期待します。	p. 25 に記載していますとおり、人身被害を防ぐためには、防護柵の設置とあわせて、ゴミや不要作物等の要因物を適切に管理しイノシシが出没しづらい環境をつくることが重要であると考えております。遭遇した場合は、刺激をしないことが大切です。 また、人的被害については市町の鳥獣担当部局や県の鳥獣担当部局に加えて警察等と連携し対応したいと考えています。
(3) 施策の基本的な考え方			
3	21	個体数の何らかの指標がなくては、「順応的管理」はできないと考えられます。被害件数などの代理指標や複数の指標の統合指標でも良いですから、そうした指標を設けるべきではないでしょうか。 また、「個体数の推定が現実的に困難」「一年間という短い期間の間でも個体数の変動が大きい」理由の説明を含められないでしょうか。	目撃効率や捕獲効率の生息密度指標や被害状況等の把握等によりイノシシの生息動向を総合的に判断し「順応的管理」を行います。 また、「 <u>イノシシは生まれてから1年ほどで繁殖できるようになり1回の産仔数も4～5頭と多いが、若齢での死亡率が高く生育する頭数は環境要因により大きく変わる</u> 」ことを追記します。
4	21	農地や住宅密集地のみでなく、観光地やゴルフ場などの娯楽施設も	計画本文では、農林業被害だけでなく、人身事故につながる市街地

		重点地区に指定して管理する必要があると考えます。	への出沒についても対策が必要であると記載しております。ご意見のとおり、観光地やゴルフ場などの娯楽施設についてもイノシシによる被害はありますが、まずは農地や市街地での対策に重点をおき施策を実施していきたいと考えております。このことから、原案どおりとします。
5	22	人工林、環境林、天然林の整備がどのように人とイノシシの棲み分けにつながるのか、簡単な説明を入れられないでしょうか。空間な配置等によって、そのような可能性があるかと述べられないのでしょうか。	森林管理については、イノシシをはじめとする野生鳥獣の生息に配慮し、人工林、環境林、天然林それぞれの特徴にあった整備を行いたいと考えております。
7. 第二種特定鳥獣の数の調整に関する事項			
(1) 目標達成のための具体的な施策			
6	23	今年度は他県で知る限り2件の猟銃による死亡事故が発生しております。狩猟者の高齢化に伴い、いわゆるベテランによるみなし発砲や慣れが生む猟銃取り扱いが、それらの主たる要因だと感じています。このような事故は起こるべくして起こる事故です。これらの事故が起こらぬよう、熟練者への注意喚起が必要だと思いますので、そのような取組を期待します。	猟銃の慎重な取り扱いは、事故の予防など安全管理上、大変重要です。今後とも熟練者を含め狩猟者に対する注意喚起を図ってまいります。
(2) その他目標達成のために推進すべき事項			
7	23	野生動物が出沒する原因を正しく理解することは極めて重要な課題であると思います。人里に出沒する要因にはさまざまな事柄が関連しており、それらを包括的に理解し、対策をたてていくことが重要になると考えます。季節や生態（繁殖に絡んだ）さらには場所を考慮した原因の理解が必要で、それらが達成されるような取組に期待します。ま	現在、定期的に農水省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーを含む有識者の意見を聞きながら、本計画における順応的な管理を推進しております。今後とも、農水省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーをはじめ広く関係者の意見をお聞きしながら施策を進めてまいります。

		た、連携活動などにおいては「農水省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー」の活用も有効であろうかと思えます。	
8. 第二種特定鳥獣の被害防除対策に関する事項			
(1) 農林業被害			
8	24	農業生産物（廃棄物を含む）のみでなく、庭先栽培物や、残飯の放置なども含め地域ぐるみで包括的に徹底した対策が重要です。これらの有用・重要性を啓発し、継続できる取組の提案を期待します。	これまでから「集落ぐるみによる鳥獣害対策」を推進してきたところですが、p.25に記載しておりますとおり市街地への出没対策では誘因物を適切に管理することが重要と考えられることから、ご意見については今後の施策の参考とさせていただきます
(5) その他の被害			
9	25	餌資源となるものの排除もさることながら、山から河川などを通して市街地へ出没する動的な環境の遮断が重要な課題だと思えます。河川管理と合わせて早急な対策・取組を期待します。	河川・水路等におけるイノシシ出没対策におけるイノシシの出没対策についてはp.25に記載しておりますとおり河川管理部局等と連携し取り組むこととしており、ご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
9. 第二種特定鳥獣の生息環境の保全・整備に関する事項			
(2) 農地に接する森林および耕作放棄地			
10	26	イノシシと里山の関係は古く古代から続いている課題です。共存の道をすすめつつ、棲み分けを現代科学を駆使し、合理的に対応する必要があると考えます。とくに放棄地の再利用に関する家畜生産を活用したゾーニングが一つの解決策にあげられます。しかし、家畜生産のノウハウの有無が、本事業の推進において極めて重要であることが、見落とされがちになってしまいます。私の研究室でも行っている IT 技術を活用した遠隔地での家畜生産技術の確立と連携しながら、効率的か	p.26に記載しておりますとおり耕作放棄地の再生利用はイノシシ対策において重要であると考えており、今後の施策の参考とさせていただきます。

		つ持続的なゾーニング技術の確立を目指す必要があると思います。	
11	26	そのとおりであるが、林縁を伐採後、管理がなされず、やぶ化しているところが多いのが現状である。地元自治会任せで状況が改善するとは考えにくく、行政による何らかの介入が必要ではないか。	集落ぐるみ獣害対策促進事業の実施要件として、刈り払い等地元での維持管理の実施が必要となります。今後とも適切な事業の推進に向け研修等を行い集落への支援を行います。
12	26	イノシシは学習能力が高く、畑を一度餌場と認識すると被害が継続する。イノシシの生息域と集落が隣接し緩衝地帯がない地域では、防護柵の設置や駆除だけではなく、イノシシの学習効果を利用した対策を重点的に実施することが重要である。罠の設置などイノシシが嫌がる環境を作る他、被害に遭った畑でイノシシが忌避する匂い成分の利用（トウガラシエキスの野菜への塗布）などの施策が考えられる。	トウガラシエキスなどの散布はイノシシ対策として実施されており効果があつたところのご意見もありますが、環境の変化による一時的な警戒であり継続的な効果が期待できないことも考えられます。 イノシシ被害対策については防護柵の整備と併せて、被害地域の実情に合わせて駆除やその他対策など複合的に実施することが重要であると考 えております。
10. その他第二種特定鳥獣の管理のために必要な事項			
(2) 普及啓発			
13	27	現実に住宅地にもイノシシが出没するようになってきました。人身被害が起らないように、出会った場合の対処方法についての普及啓発もなされるべきではないでしょうか。	p. 25に記載していますとおり、人身被害を防ぐためには、防護柵の設置とあわせて、ゴミや不要作物等の要因物を適切に管理しイノシシが出没しづらい環境をつくることが重要であると考えております。遭遇した場合は、刺激をしないことが大切です。 ご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
(3) イノシシの資源的利用について			
14	27	(鹿肉の食用利用と共通して言えることであるが、) 食肉としての資源利用拡大に際しては、狩猟者・処理業者だけでなく、食肉の利用者である調理人の視点を入れ、衛生管理	安全で衛生的に管理されたジビエ活用の支援を進めるため、ご意見を参考にさせていただきます。

		および品質の確保を図るべきである。植物性の餌中心か雑食性であるかの個体の違いによって食味や安全性が変わるため、食肉に適した個体の捕獲場所の特定のために情報を蓄積するようにすることが求められる。また狩猟者・処理業者は、販売重量を多く確保しようとするインセンティブが働くため、食用に適した部位の範囲よりも広げて加工する傾向があり、食用に適した品質を保持するためには、解体・加工の工程に利用者である調理人の視点を入れる仕組み作りが必要である。	
15	27	シカ肉に比べ上質な肉であることから、需要も高く捕獲された個体はほとんどが流通に流れている感があります。食肉を扱う点で衛生面での指導を徹底することは当然ですが、利活用市場の開拓についても積極的な取組が望まれるところです。	滋賀県ジビエ活用検討プロジェクトチームを立ち上げ、捕獲鳥獣の食肉利活用の取り組みを推進しているところです。イノシシはシカ等と比べると自給的な商品化もみられることから、県では当面、シカを中心に取り組みを推進する考えです。このことから原案どおりとします。
その他			
16		狩猟者の安全性の確保という点で、「山林内における狩猟者が気をつけるべき危険生物ハンドブック」などの情報が必要だと感じています。とくに「ダニ」に関しては危険性は十分に把握しているものの、見分け方や排除方法など、一定の対策がなされているとは感じません。個人的に関連する猟友会支部会内で情報の提供はしておりますが、県全体として包括的な対応が望まれます。 狩猟者のみを対象にせずとも、登山者が注意すべき・・・ということ	狩猟者からもマダニ等の危険性についてはご指摘いただいているところです。また、今後ジビエ活用を推進するにあたっては注意を払う必要があると考えております。 ご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。

	でも良いと思います。ダニ、ヒルなどは当然ながら他の危険生物、特に登山者においてはイノシシ（クマも当然ですが）は直接生死に関係する大変危険な生物となります。それらをまとめたハンドブックの配布を通して啓発を行うことも重要であろうと感じます。	

2. 県素案（県民政策コメント案）からの修正点

頁	計画素案(県民政策コメント案)	修正案
p.23 1行目 7. 第二種特定鳥獣の数の調整に関する事項 (1) 目標達成のための具体的な施策 ※ 県民政策コメントによる意見に基づく修正	イノシシについては、個体数の推定が現実的に困難であることや、一年間という短い期間の間でも個体数の変動が大きいことなどから、ニホンジカのように目標とする生息個体数や生息密度を設定し、それを管理目標とすることは難しい。	<u>イノシシは生まれてから1年ほどで繁殖できるようになり1回の産仔数も4～5頭と多いが、若齢での死亡率が高く生育する頭数は環境要因により大きく変わる。イノシシについては、個体数の推定が現実的に困難であることや、一年間という短い期間の間でも個体数の変動が大きいことなどから、ニホンジカのように目標とする生息個体数や生息密度を設定し、それを管理目標とすることは難しい。</u>